

地域創生	【代表的な研究テーマ】
keyword	<input type="checkbox"/> 商業集積を核とした街づくりの研究 <input type="checkbox"/> 動態地誌的な視点からみた地域構造の変化
<ul style="list-style-type: none"> ■ 街づくり ■ 商業集積 ■ ショッピングセンター ■ 動態地誌 ■ 都市圏 ■ 地域主義 ■ フィールドスタディ 	課題解決に役立つシーズの説明
	<p>■フィールドワークにもとづく地域研究</p> <p>私はフィールドワークにもとづく地域研究を研究方法の基礎に置いてきました。主たるテーマは都市圏における地域構造とその変化についてです。ここで言うフィールドワークとは「視察」ではなく、地域の中の施設単位の観察と調査を指します。地域構造を形成するファクターとして、小売・サービス施設などのもつ中心性を考えることを基本としてきました。そこから、地域小売業の研究を主要な研究テーマとしてきました。代表的なフィールドワークには、以下のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近江八幡都市圏の中心地構造 ・島根県簸川平野の女性の行為空間 ・京都市中心部の中小零細店舗の消長 ・富山県砺波地方の共同店舗とそれを核とした街づくり ・アメリカ合衆国シアトル都市圏のショッピングセンターの分布と機能的変化
松田 隆典 Takanori Matsuda	<p>■動態地誌のための地域研究</p> <p>地域の中の特徴的なファクターを軸にして、他のファクターとの関連を考察しながら、地域の特色を描くことを「動態地誌」と言います。地域のファクターの関連性を考察するためには、ファクターの変化について分析することが必要となります。動態地誌的な地域研究には、しばしば統計分析が必要になります。今まで手がけてきた代表的な動態地誌には、以下のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栃木県の内陸工業地域の形成と変動 ・北海道富良野盆地の中心市街地の形成と変容 ・韓国嶺南地域の工業化と地域的発展 ・滋賀県湖南地域の工業化と宅地化 ・旧産炭地田川の発展と衰退 ・北九州都市圏の産業構造の変動
教育学部 教授	
【専門分野】 ・経済地理学 ・社会地理学 ・都市地理学	
【プロフィール】 ●略歴 1982年 京都大学文学部史学科卒業 (人文地理学専攻) 1986年 京都大学大学院文学研究科 修士課程修了(地理学専攻) 1987年 同博士後期課程中退 1987年 京都大学文学部助手 1990年 宇都宮大学教養部講師 1993年 滋賀大学教育学部助教授 2001年 同教授	<p>■地域研究の初等・中等教育への応用—社会科の授業研究</p> <p>・新しい中学校社会科の学習指導要領において、教育現場で最も多く疑問が寄せられたのが動態地誌の授業でした。私はその疑問に答えるために、あえて学会誌ではなく、リポジトリに即効的に公開される大学紀要に、授業案の事例とその地理教育上の意義について掲載しました。また、将来の中学校社会科の教師のために、公開している事例をモデルにして、日本の諸地域に関する動態地誌的な授業案を作成させています。</p> <p>・小学校3・4年生の「身近な地域」は、子どもにとって直接的に地域を経験し、認識する入口的な単元ですが、この身近な地域の教材研究は小さな自治体では必ずしも市教委作成の副教材が得られない場合がよくあります。私は教育学部の学生がほぼ全員受講する授業において、自分の出身地を例にとり、身近な地域の地図を作成させています。これは上記の地域研究の応用であり、未来の教師にとって、オリジナルの地図教材づくりの経験です。</p> <p>・地域研究の応用としての地域探検の前段階として、生活科における学校探検を推奨しています。大学のキャンパスを学校に見立てて、学校探検の授業を考えることは、子どもにとっての初めてのフィールドワークであり、子どもが安全に身近な空間を観察するための教材を与えてくれます。</p>
●主要な所属学会 ・人文地理学会 ・日本地理学会 ・経済地理学会 ・地理教育学会	
	企業・自治体へのメッセージ
	<p>滋賀県も全国的な動向と同じく人口減少局面を迎えました。拡大傾向を前提とした地域政策のままでは、有効でない時代です。私が対象にした地域研究の多くは、縮小社会を描いています。</p>